



茨城ワイズメンズクラブ
2022 年度-2023 年度
1 月報 Vo 1.185
強調月間テーマ

IBC / DBC

THE Y'S MEN'S CLUB OF
IBARAKI
CHARTERED 2006



国際会長主題 「Let Your Shine」
アジア太平洋地域会長主題 「Be the light for change」
東日本区理事主題 「未来のために今、学びと気づきを！」
関東東部部長方針 「親睦を糧に、クラブライフの充実」
茨城クラブ会長主題 「原点回帰」

☆今月の聖句☆

初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。
(ヨハネによる福音書 1 章 1 節)

<例会プログラム>

と き:2024 年 1 月 12 日(金)
19:00~21:00(最大)
と ころ:筑波学園教会 教育会館
zoom によるハイブリッド開催
zoom によるリモート開催

司 会:熊谷光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷光彦

ワイズソング:(リモート開催時はスキップ)

21-532「やすかれ、わがこころよ」

ワイズ信条:(リモート開催時はスキップ)

- 1、自分を愛するように隣人を愛そう
- 1、青少年のために YMCA に尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう

- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさとうろう

- 1、会合には出席第一

社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・祈祷:熊谷光彦

聖書朗読:熊谷光彦

協議:新年度役員体制、活動方針等
ハッピーバースデー&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:(リモート開催時はスキップ)

茨城 Y M C A 報告:和田賢一

2 月例会日程:2 日(金) or 9 日(金)?

閉会挨拶と点鐘:熊谷光彦

「同盟出向中間報告」

茨城 YMCA 大澤篤人(あっとん)

明けましておめでとうございます。

昨年やっと入会した新人ワイズ「あっとん」こと大澤篤人です。

前回巻頭言を書かせていただいたのは、日本 YMCA 同盟への出向に行くタイミングでしたので、それ以降の近況をお伝えしようと思います。

1 年目、特に出向当初は、子どもたちのいない職場になかなか慣れませんでした。茨城 YMCA で総務となつてからも、ドアを隔てて子どもたちから元気をもっていたことを思い知りました。はじめは仕事内容も力の抜き方も分かりませんでしたので大変でしたが、だんだんと様子がわかっていきました。しかし、前任の通りの仕事をこなすことに必死で、自分で考えて応用すべき場面は苦手でした。また、コロナの影響は色濃く残っており、(今思えば)出張も多くありませんでした。1 年目の最も大変な仕事は、昨年 11 月に行われた日本 YMCA 大会、しかも 4 年ぶりの対面開催でした。

担当は、参加経験のない主務者(茨城 YMCA でいう主任)と私の 2 人。手探りで準備を進め、直前は毎日終電という日が続きました。しかし、いわゆる“同盟らしい”仕事だと実感でき大変だった



分、達成感も大きな経験となりました。

2年目には、だいぶ慣れてきて同盟として行うべき仕事を考えられるようになりました。2014年に参加させていただいたSTEP II 研修の中で、「縁の下の力持ち」としての役割、裏方として YMCA に貢献することへ興味を抱きましたが、茨城 YMCA で総務を行った時と同様、同盟の働きでもその内容に使命を感じながら働いています。コロナ禍の影響はかなり薄れ、対面開催の会議や研修に伴う出張も増えました。もちろん準備も複雑で、当日も時間がとられるので大変ですが、これこそ“同盟らしい”仕事だと、前向きに楽しく取り組んでいます。

その同盟出向は、2年延長され2026年3月までとなりました（もしかしたら職員にはまだ内緒かも）。茨城 YMCA には負担をかけ申し訳ないことですが、この1年半の働きが評価されたからこそその申し出だと思い、嬉しく受け取っています。茨城 YMCA をもうしばらく留守にいたしますが、少しでも成長して帰ってこられるように精進します。

【例会報告】

クリスマス例会を、12月1日(金)に日本キリスト教団筑波学園教会の教育会館にて開催いたしました。真冬がきたかのような寒い日でしたが、会員6名(熊谷、柳瀬、村田、大澤、和田、今井)、スタッフ1名、ゲスト2名(大澤さんのお友だち)、奏楽ゲスト1名(熊谷会長のおつれあい)が集まり、和やかな開催となりました。

クリスマス例会ということから、プログラムのワイズソング「いざたて」の歌詞に替えて、同じメロディーの讃美歌21-532番「やすかれ、わが



こころよ」を歌いました。そして熊谷会長から今月の聖句、祈祷、聖書の朗読のあと、筑波学園教会の上原秀樹牧師に、クリスマスのメッセージをいただきました。子どもとお母さんとの会話のお話からはじまり、新約聖書『ヨハネによる福音書』冒頭部分を取り出し、言葉は人と人をつなぐ媒体であること、イエスは神と人をつなぐ媒体であること、神さまと人間との関係、そして愛についてお話をさせていただきました。

例会の最後にはクリスマスらしい讃美歌 258番「まきびとひつじを」を皆で歌いました。

スマイルは柳瀬さん、娘さんのご家族、お孫さんが5年ぶりに米国から日本に来られるそうで楽しい年末年始を(このブリテンが発行される)今ごろは、お過ごしになられているかと……。大澤さんからは、ご夫妻のそれぞれのご両親も揃って旅行に行く機会が持てたということ、熊谷さんからはお孫さんに自転車をプレゼントでき



たこと(三世代で霞ヶ浦一周が夢!)をお話していただきました。和田担当主事の茨城 YMCA 報告を聞いて、閉会となりました。閉会後には、クリスマスの食事(メニュー:チキン丼、にんじんサラダ、もやしピクルス、お漬物、スープ、デザートにシフォンケーキ)をしながら歓談した後、帰路につきました。



(書記 村田)

12月例会出席状況

会員:6名(今井靖、大澤篤人、熊谷光彦、村田淳、柳瀬、和田賢一)、ゲスト2名(堀切さん夫妻)、スタッフ:1名(大澤秋太郎)、リーダー:0名、奏楽ゲスト:1名(熊谷裕子)、出席総数:10名、在籍者会員数:11名、会員出席率:55%

【事務報告】

会計報告 (12月1日～1月11日)

前月繰越金	¥2,274-
例会食事材料費	△¥4,000-
スマイル等	¥3,000-
寄付献金	△¥1,000-
借入金返済	△¥52,000-
チャリティーラン参加費	¥12,000-
会費	¥52,000-
次月へ繰越	¥12,272-
(借入金残額)	¥18,000-

会員のみなさまにおかれましては、会費の前納にご協力を賜りたく願います。

(会計 柳瀬)

【茨城 YMCA 報告】

12月の報告

4日 早天祈祷会

4日～6日

北関東 YMCA ディレクタートレーニング

9日～11日

北関東 YMCA リーダートレーニング

6日 早天祈祷会

13日 主任会

18日 職員礼拝・職員会

23日 障がい児者自立支援たんぽぽクラブ

25～1月6日 ウィンタースクール

26～29日 冬スキーキャンプ

29～1月3日 茨城 YMCA 冬季休館日

1月の予定

～3日 茨城 YMCA 冬季休館日

～6日 ウィンタースクール

9日 幼保園3学期開始

13日 茨城 YMCA 創立30周年記念チャリティーコンサート

14日 小学生ディキャンプクラブつくわい

14日 中高生ディキャンプクラブユース

16～23日 みらいへグール

18日 主任会

20日 放課後等ディサービスひかりの子チャレンジトリップ

20日 障がい児者自立支援たんぽぽクラブ

23日 職員礼拝・職員会

27～28日

全国アフタースクール部会 (茨城開催)

27～28日 ゆきだるまキャンプ

27日 高学年ディキャンプクラブトムソーヤ

(連絡主事 和田)

【編集後記】

明けましておめでとうございます。2024年は年始から能登の地震に加えて、航空機の事故なども起こるスタートとなりました。現時点では被害の全容は明らかになっていませんが、東日本

大震災や熊本地震にも匹敵するような被害ではないかと思えます。日本は本当に自然災害が多くて、いつどこでまた新たな災害があるかもわからない国。だからこそ、暖かい部屋のなかで新年を迎えることができることの幸せをかみしめなければならぬし、感謝しなければならないのだと思います。年末年始、故郷の大阪や東京、そして地方にも足を伸ばしましたが、日本人行楽客と海外からの観光客でどこにもぎわって



琵琶湖に昇る朝日



駿河湾フェリーからの富士山
清水郷土肥田



筑波山からの夕景

いました。綺麗な自然、美味しい食べもの、日本にはまだまだ魅力がたくさんあります。一方で、どこに行っても人手不足を感じます。社会を支える立場にある人たちの負担が限界にきていることも、この年末は随所で感じました。そんな前提のなかで YMCA は、ワイズメンズクラブはどのように役割を果たしていくのか。今年もみなさんとともに考えていきたいと思えます。

(書記 村田)



4歳の孫との初サイクリングに感謝。一緒に10kmも走れたことには驚きました。

(会長 熊谷)

いざ立て

ONCE MORE WE STAND

(フィンランディア) より

Words by Presu. Emeritus Paul Wm. Alexander

淵田多穂理 訳詞

1. いざたて、こころあつと
 2. うたえ、こころひと
 1. Once more we stand, New zeal our hearts im
 2. As now we sing, In com-rade-ship more

くし — 手をあげちかいはら
 つに — ともがきひろがりゆ
 bu ing; — ; we raise our hand, Our ser-vice pledge re-
 bind ing; — ; Our love we bring, Re-ward in friend-ship

たに われらのモットーまもる
 きてとおきもちかきもみな
 new-ing, Ne'er-to de-ny our — mot-to's — claim
 find-ing. To ev-'ry Y's men — far. and — near

— ふさわし、そのなワイズメン
 — ささげて、たつやワイズメン
 — Y's men in Fact as well — as name.
 — we pledge de vo tion most — sin cere.

たえせず、めあてのぞみ
 さかえと、ほまれゆたか
 Al-ways our ob-jects — to pur — sue
 Glo-ry and pride Y's — men to — be

— のみをささげつくさん。
 — まことはむねにあふれん。
 — we con-se-crate our selves. — anew.
 — Fill ev-'ry heart with loy - al - ty.